

●東京外国語大学 総合国際学研究科国際協力専攻**「臨地教育実践による高度な国際協力人材養成」の事例 <人社系>****具体的に何を実施したのか**

国連機関をはじめ、経済協力開発機構（OECD）、国際移住機関（IOM）等の国際機関と覚書を交わし、学生を長期インターンシップに派遣して、将来的に国際公務員として働くための実践経験を積ませた。また、修士論文、博士論文執筆のため、学生に世界各地でフィールドワークを行なわせ、理論と実践の融合を図った。

実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

インターンシップ、フィールドワークの事前準備を充実させるための新規科目「臨地実践演習Ⅰ」を開講した。また同じく新規科目「臨地実践演習Ⅱ」を導入して、帰国後の報告、省察、総括の場とし、現地での実践経験で得られた知見やスキル等をより確実に身につけさせるように工夫した。

どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

インターンシップ、フィールドワークは、いずれも質の高い学位論文として結実した。国際公務員として採用されるためにはきわめて高度な資質・能力、経験が要求されるため、インターンシップを実施した学生たちは、課程修了後も、定期的な勉強会を開催し、あわせて情報の交換も行なっている。